

# 景気動向調査結果

(平成24年1月分)

長野県商工労働部

この調査は、県内企業 900 社（製造業 300 社（うち面接 65 社）、建設業、情報サービス業、小売業・卸売業、宿泊業・飲食業 600 社）を対象に、平成 24 年 1 月末の状況（前年同期、3 ヶ月前と比較した状況、3 ヶ月後の状況予想）について、平成 24 年 2 月に面接又は書面により行ったものです。

なお、平成 23 年度の調査からは、従来の「製造業」に、「建設業」、「情報サービス業」、「小売業・卸売業」、「宿泊業・飲食業」も加えて実施しております。

回答企業数は、577 社（製造業 241 社（うち面接 65 社）、建設業、情報サービス業、小売業・卸売業、宿泊業・飲食業 336 社）で、回答率は 64.1 パーセントでした。

※調査結果の概要は、インターネットで御覧になれます。

〔URL <http://www.pref.nagano.lg.jp/syoukou/sinkou/keiki/keikidoukou.htm> 〕

お問い合わせ先：製造業について

長野県商工労働部産業政策課（TEL 026-232-0111 内線 2919）

建設業、情報サービス業、小売業・卸売業、宿泊業・飲食業について

長野県商工労働部経営支援課（TEL 026-232-0111 内線 2959）

# 1月の景気動向

## 1 総 論

県内企業の業況感は、円高の影響や海外経済の減速などにより、足踏み状態となっています。

## 2 製造業

### (1)概況

県内製造業の業況感は、一般機械で受注、生産の回復がみられるものの、電機・電子で海外需要の減少により受注、生産の低下がみられることから、2期連続で悪化しました。

前年同期(23年1月)と比べたDI(業況が「好転」とする企業の割合から「悪化」とする企業の割合を差し引いた値)は $\Delta 38.0$ で4期連続のマイナスとなりました。

また、3ヶ月前と比べたDIは $\Delta 41.2$ で2期連続のマイナスとなりました。

なお、3ヶ月後の予想では、新興国等を始めとした海外需要の拡大や国内需要の持ち直しへの期待感があるものの、円高に伴う景気の先行き不安や海外経済の減速に対する不安などを背景に、DIは $\Delta 16.9$ となりました。

### 〔主な業種の動き〕

ア 電機・電子では、パソコン関連は、需要の減少やタイの洪水の影響により、受注、生産が弱含んでいます。プリンターは、ビジネス向け需要に一服感がみられるほか、円高の影響による収益率の低下がみられます。半導体関連、抵抗器・コンデンサ、モーター等は、海外需要の減少により受注、生産が減少しているほか、円高の影響による収益率の低下もみられます。

イ 一般機械では、工作機械は自動車関連で受注、生産が回復しているものの、電子部品関連では設備投資が抑制傾向にあり、受注、生産が弱含んでいます。建設機械は、国内向けは需要が回復傾向にあり受注、生産が持ち直しているほか、海外向けは、円高の影響による収益率の低下がみられるものの、需要の増加に伴い、受注、生産が回復しています。

ウ 精密では、時計は海外需要の増加などから、受注、生産の増加がみられます。レンズはデジタルカメラ向けで一部にタイの洪水の影響による受注、生産の減少がみられるほか、製品価格下落に伴う収益率の低下もみられます。計器は、圧力計で産業機械関連を中心に受注、生産の減少がみられます。

エ 自動車部品では、タイの洪水からの復旧やアジアを中心とした海外需要の増加に伴い、受注、生産が回復しています。

オ 食料品では、味そは冬季の気温低下による需要増加により、受注、生産が増加しています。酒類は一部に受注、生産の増加がみられるものの、消費の低迷により引き続き低調に推移しています。飲料は季節的要因により、3ヶ月前と比べペットボトル飲料の受注、生産が減少しています。

## (2) 受注引合

前年同期比では、「増加」とする企業が 19.8%と前回(22.3%)より減少し、「減少」とする企業が 49.4%と前回(44.2%)より増加した結果、その差は前回より拡大しました。

3か月前との比較では、「増加」とする企業が 11.4%と前回(21.9%)より減少し、「減少」とする企業が 50.4%と前回(38.2%)より増加した結果、その差は前回より大幅に拡大しました。

3か月後の予想については、「増加」とする企業が 19.2%であるのに対して、「減少」とする企業が 33.3%と、「減少」とする企業の割合が「増加」とする企業の割合を上回っています。

## (3) 生産量

前年同期比では、「増加」とする企業が 21.3%と前回(23.7%)より減少し、「減少」とする企業が 47.7%と前回(44.0%)より増加した結果、その差は前回より拡大しました。

3か月前との比較では、「増加」とする企業が 13.4%と前回(22.3%)より減少し、「減少」とする企業が 49.1%と前回(38.2%)より増加した結果、その差は前回より拡大しました。

3か月後の予想については、「増加」とする企業が 19.5%であるのに対して、「減少」とする企業が 33.0%と、「減少」とする企業の割合が「増加」とする企業の割合を上回っています。

## (4) 製品販売価格

前年同期比では、「高い」とする企業が 7.1%と前回(6.5%)より増加したものの、「安い」とする企業も 39.7%と前回(37.5%)より増加した結果、その差は前回より拡大しました。

3か月前との比較では、「高い」とする企業が 3.4%と前回(3.5%)とほぼ同じとなり、「安い」とする企業が 23.5%と前回(22.5%)よりやや増加した結果、その差は前回より拡大しました。

3か月後の予想については、「高い」とする企業が 2.1%であるのに対して、「安い」とする企業が 25.4%となっており、「安い」とする企業の割合が「高い」とする企業の割合を上回っています。

## (5) 資金繰り

前年同期比では、「らく」とする企業が 12.2%と前回(9.9%)より増加したものの、「苦しい」とする企業も 29.1%と前回(20.4%)より増加した結果、その差は前回より拡大しました。

3か月前との比較では、「らく」とする企業が 7.0%と前回(6.8%)とほぼ同じとなり、「苦しい」とする企業が 24.0%と前回(13.6%)より増加した結果、その差は前回より大幅に拡大しました。

3か月後の予想については、「らく」とする企業が 7.9%であるのに対して、「苦しい」とする企業が 22.8%と、「苦しい」とする企業の割合が「らく」とする企業の割合を上回っています。

## (6) 収益率

前年同期比では、「上昇」とする企業が 10.2%と前回(16.2%)より減少し、「低下」とする企業が 54.7%と前回(48.7%)より増加した結果、その差は前回より拡大しました。

3か月前との比較では、「上昇」とする企業が 5.5%と前回(8.3%)より減少し、「低下」とする企業は 52.6%と前回(38.1%)より拡大した結果、その差は前回より拡大しました。

3か月後の予想については、「上昇」とする企業が 12.0%であるのに対して、「低下」とする企業が 37.3%と、「低下」とする企業の割合が「上昇」とする企業の割合を上回っています。

## (7) 製造業の業種別動向

### 電機・電子

(コンピュータ・情報機器) パソコン関連は需要の減少やタイの洪水の影響により、受注、生産が弱含んでいます。プリンターは、ビジネス向け需要に一服感がみられるほか、円高の影響による収益率の低下がみられません。

(半導体関連) 産業用途、環境対応車向け、デジタル家電向けで、海外需要の減少により、受注、生産が減少しているほか、円高の影響による収益率の低下もみられます。

(プリント基板) 産業用途は海外需要の減少により、受注、生産が弱含んでいます。スマートフォン向けは受注、生産に一服感がみられるほか、円高の影響や製品価格下落に伴う収益率の低下もみられます。

(抵抗器・コンデンサ等) デジタル家電向けや自動車関連向けは、海外需要の減少により受注、生産が減少しているほか、円高の影響による収益率の低下もみられます。

(モーター等) 産業用途は海外需要の減少により、受注、生産が弱含んでいるものの、自動車関連向けは、環境対応車の販売増加に伴い、受注、生産が回復しています。家電向けは一部にタイの洪水の影響による受注、生産の減少がみられます。

(その他) カーナビゲーションは、タイの洪水からの復旧に伴い、受注、生産が回復しています。電源関連は一部で受注、生産に持ち直しの動きがみられるものの、依然低調に推移しています。

### 一般機械

(工作機械) 自動車関連で環境対応車の販売増加に伴い、受注、生産が回復しているものの、電子部品関連では設備投資が抑制傾向にあり受注、生産が弱含んでいます。

(金型) 自動車関連は受注、生産が低調に推移しているほか、価格競争激化による収益率の低下もみられます。

(建設機械) 国内向けは、需要が回復傾向にあり受注、生産が持ち直しています。海外向けは、円高の影響による収益率の低下がみられるものの、需要の増加に伴い、受注、生産が回復しています。

(農業用機械) 農業用機械は、一部に需要の増加がみられることから、受注、生産が回復しています。芝刈り機や小型ディーゼルエンジンは海外需要の減少により、受注、生産が弱含んでいるほか、円高の影響による収益率の低下もみられます。

(パ ル プ)	民間設備投資が抑制傾向にあることから、受注、生産が弱含んでいます。
<b>精 密</b> (時 計)	腕時計は、個人消費の持ち直しや、海外需要の増加により、受注、生産の増加がみられます。
(レ ン ズ)	デジタルカメラ向けは一部にタイの洪水の影響による受注、生産の減少がみられるほか、製品価格下落に伴う収益率の低下もみられます。工業用レンズは受注、生産が弱含んでいます。
(計 器)	圧力計は、産業機械関連を中心に受注、生産の減少がみられます。LP ガスメーターは取替需要期のピークを過ぎたことから受注、生産の減少がみられます。
<b>自動車部品</b>	タイの洪水からの復旧やアジアを中心とした海外需要の増加に伴い、受注、生産が回復しています。
<b>食 料 品</b> (味 そ)	冬季の気温低下による需要の増加により、受注、生産が増加しています。
(酒 類)	清酒、ワインは一部に受注、生産の増加がみられるものの、消費の低迷により引き続き低調に推移しています。
(飲 料)	季節的要因により、3ヶ月前と比べペットボトル飲料の受注、生産が減少しています。
<b>繊維・衣服</b>	ワイシャツはクールビズの定着に伴う需要の増加により、受注、生産が増加しています。
<b>紙 ・ パルプ</b>	ダンボールは、青果物向けが季節的要因により3ヶ月前と比べ受注、生産が減少しているほか、原材料価格高騰による収益率の低下もみられます。
<b>印 刷</b>	印刷・製本の需要が引き続き低迷しており、受注、生産が低調に推移しています。
<b>そ の 他</b>	工業用プラスチックは、OA 機器関連やエコ関連で、受注、生産が弱含んでいます。

### 3 建設業

公共工事では、引き続き厳しい受注環境にあるほか、持ち直しの動きがみられていた設備投資などの民間工事についても弱含んでおり、売上高は前年同期を下回る企業の割合が増加しています。また、事業者間の価格競争も激しく、利益率についても前年同期を下回る企業の割合が増加しており、収益環境は悪化しています。

### 4 情報サービス業

ソフトウェア関連では、情報端末向けの新製品ソフトを中心に受注に底堅さがみられ、売上高は前年同期を上回る企業の割合が多くなっています。

業務用システム関連では引き続き取引先からの受注はあるものの、法人の設備投資に対する慎重志向により受注件数の減少や利益率が低下している企業の割合が増加しています。

### 5 小売業・卸売業

卸売業では、大手量販店との価格競争に加え、取引先の業況の影響を受けて受注件数の減少がみられます。販売価格の低下や消費者の慎重志向から、利益率も前年同期を下回る企業の割合が増加しています。

小売業では、消費者の節約意識や同業者間との競争等により、売上高は前年同期を下回る企業の割合が増加しました。また、大型店の出店に伴う競争激化により販売促進費が増加したほか、食料品では野菜など仕入価格の上昇や寒波による暖房費の増加などコスト面での増加要因が重なり、利益率は前年同期を下回る企業の割合が増加しています。

### 6 宿泊業・飲食業

飲食業では、消費者の節約意識の高まりにより内食傾向にあるほか、寒波による外出控えもあり、前年同期に比べて客数が減少しているとする企業の割合が増加しています。仕入れコストの上昇や暖房費等の経費増加から利益率の低迷が続いています。

宿泊業では、割安な宿泊プランにより客数は前年並となる企業があるものの、売上高、利益率はやや悪化しています。

※ 平成23年度の調査から、従来の「製造業」に、「建設業」、「情報サービス業」、「小売業・卸売業」、「宿泊業・飲食業」を加えて実施しています。

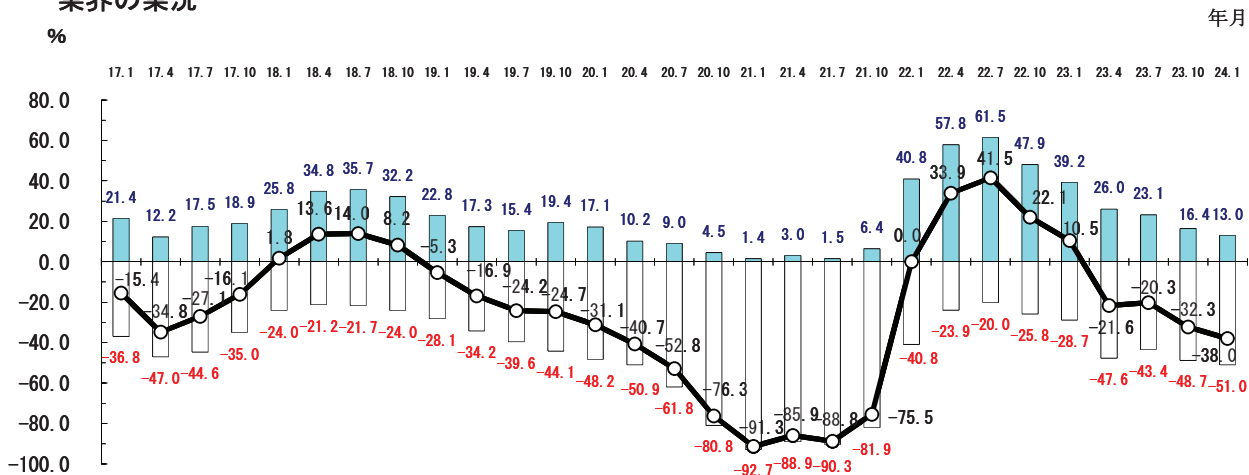
# 景気動向調査集計結果

(注)棒グラフのプラス側は好転(増加、上昇)の企業の割合、マイナス側は悪化(減少、低下)の企業の割合です。  
折れ線グラフ(DI)は好転(増加、上昇)の企業の割合から悪化(減少、低下)の企業の割合を引いた差です。

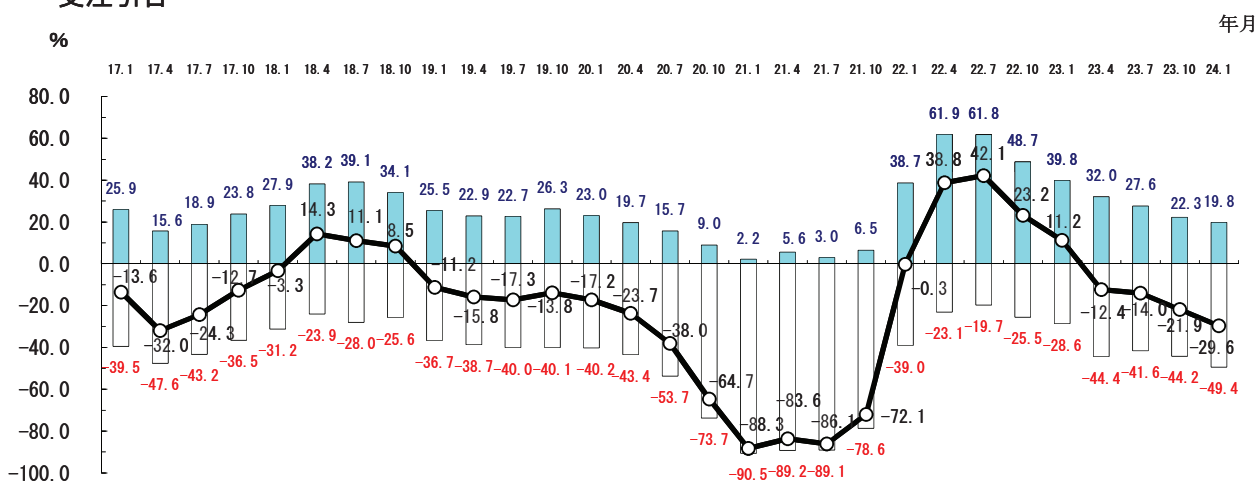
## 1 製造業

### (1) 全業種 前年同期に比べて

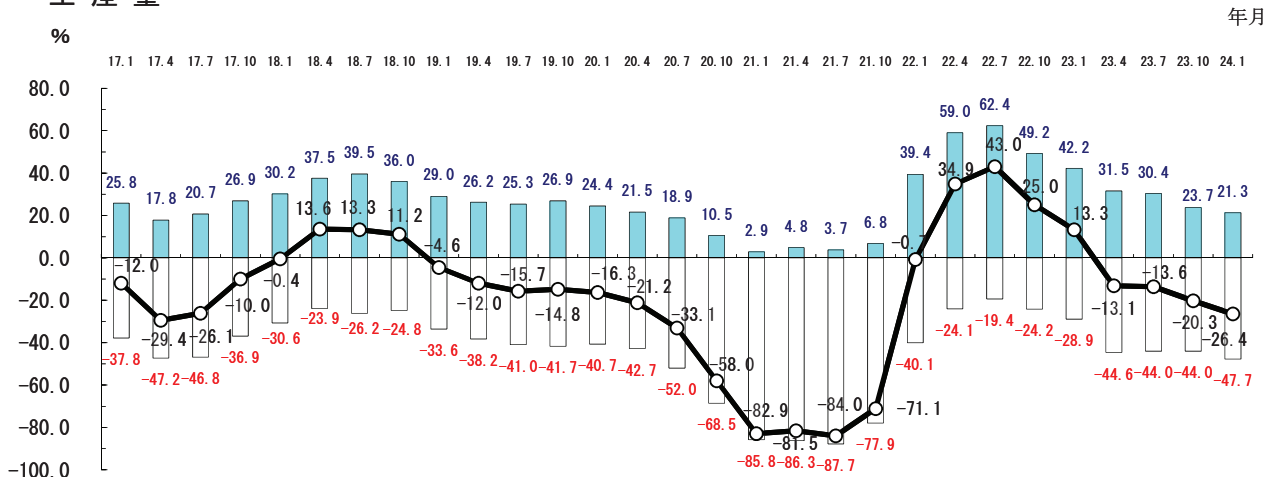
#### 業界の業況



#### 受注引合



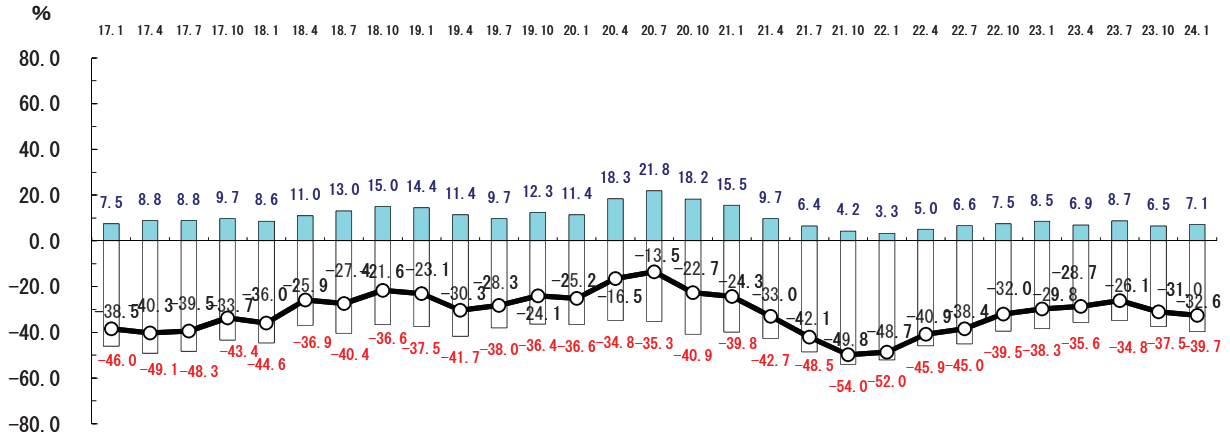
#### 生産量





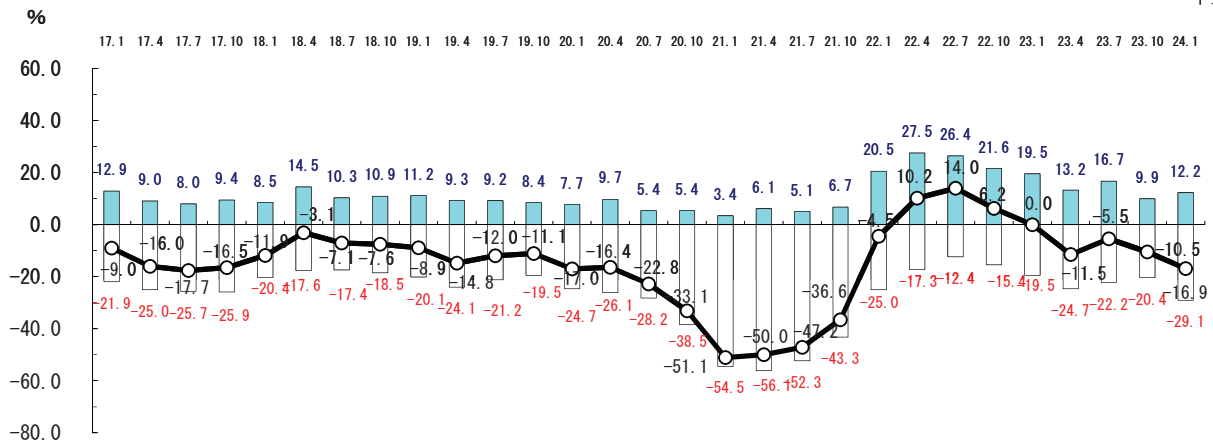
### 製品販売価格

年月



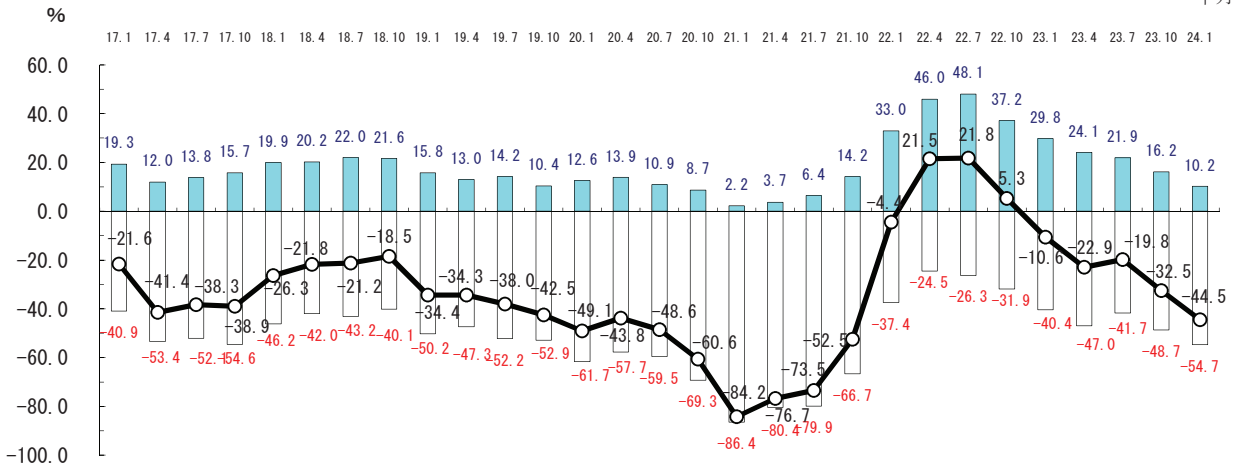
### 資金繰り

年月



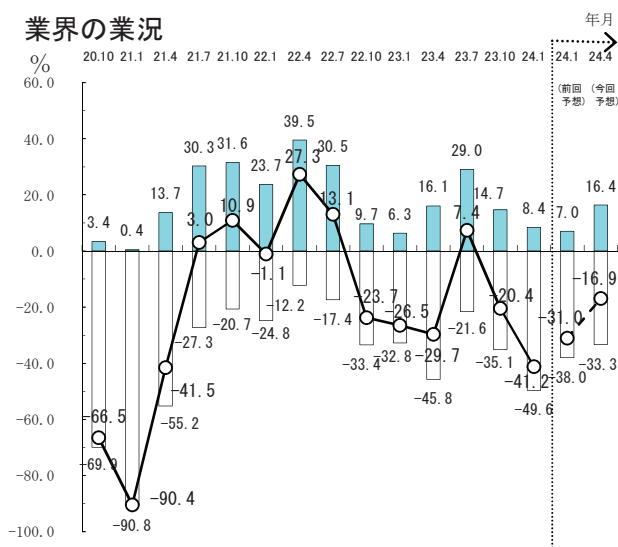
### 収益率

年月

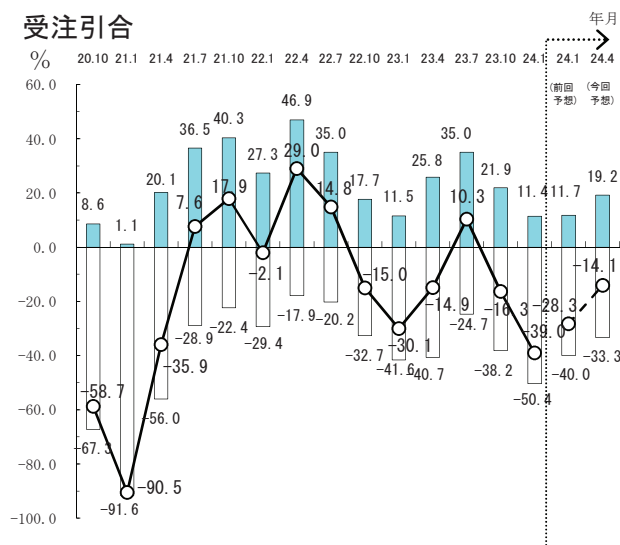


(2) 全業種 3ヶ月前に比べて及び3ヶ月後の予想

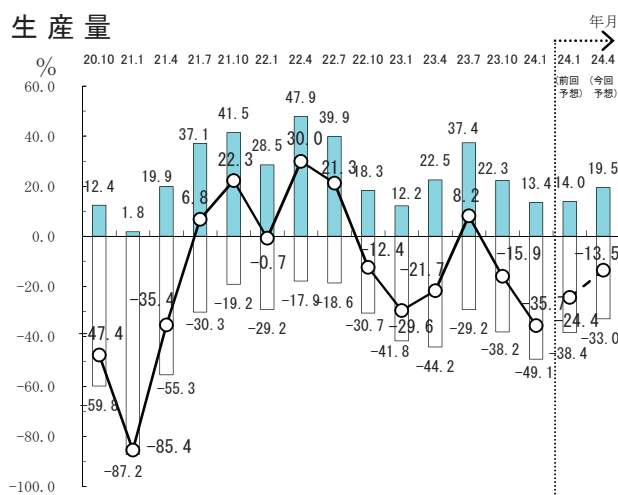
業界の業況



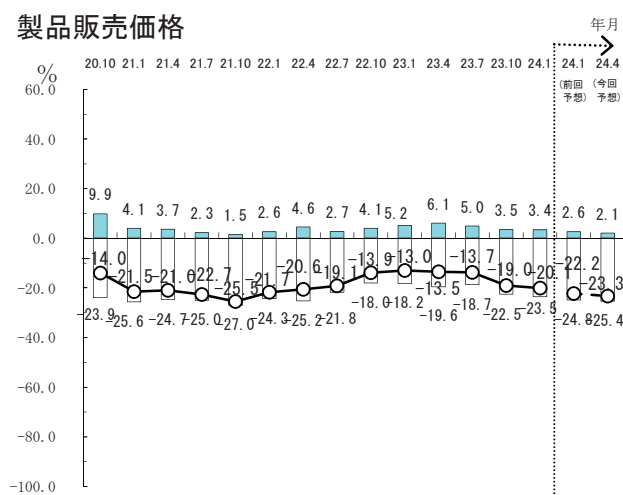
受注引合



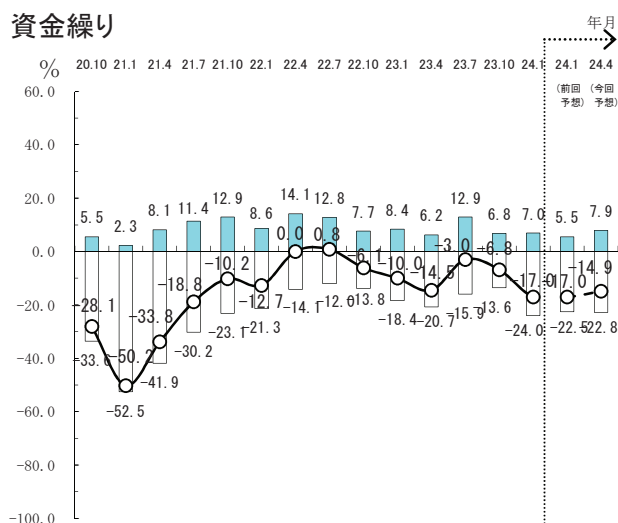
生産量



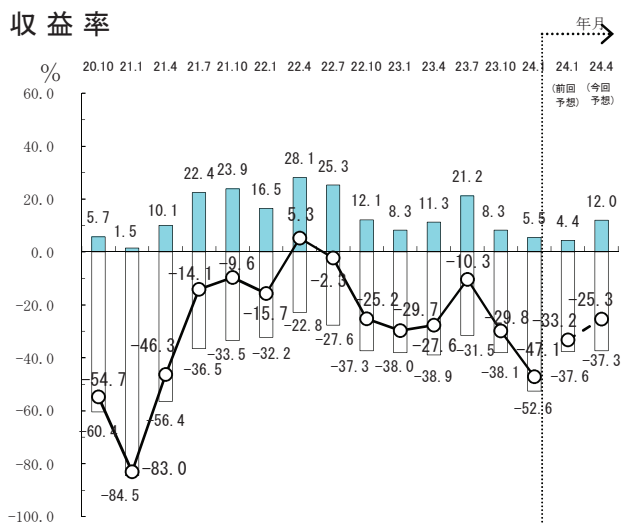
製品販売価格



資金繰り



収益率



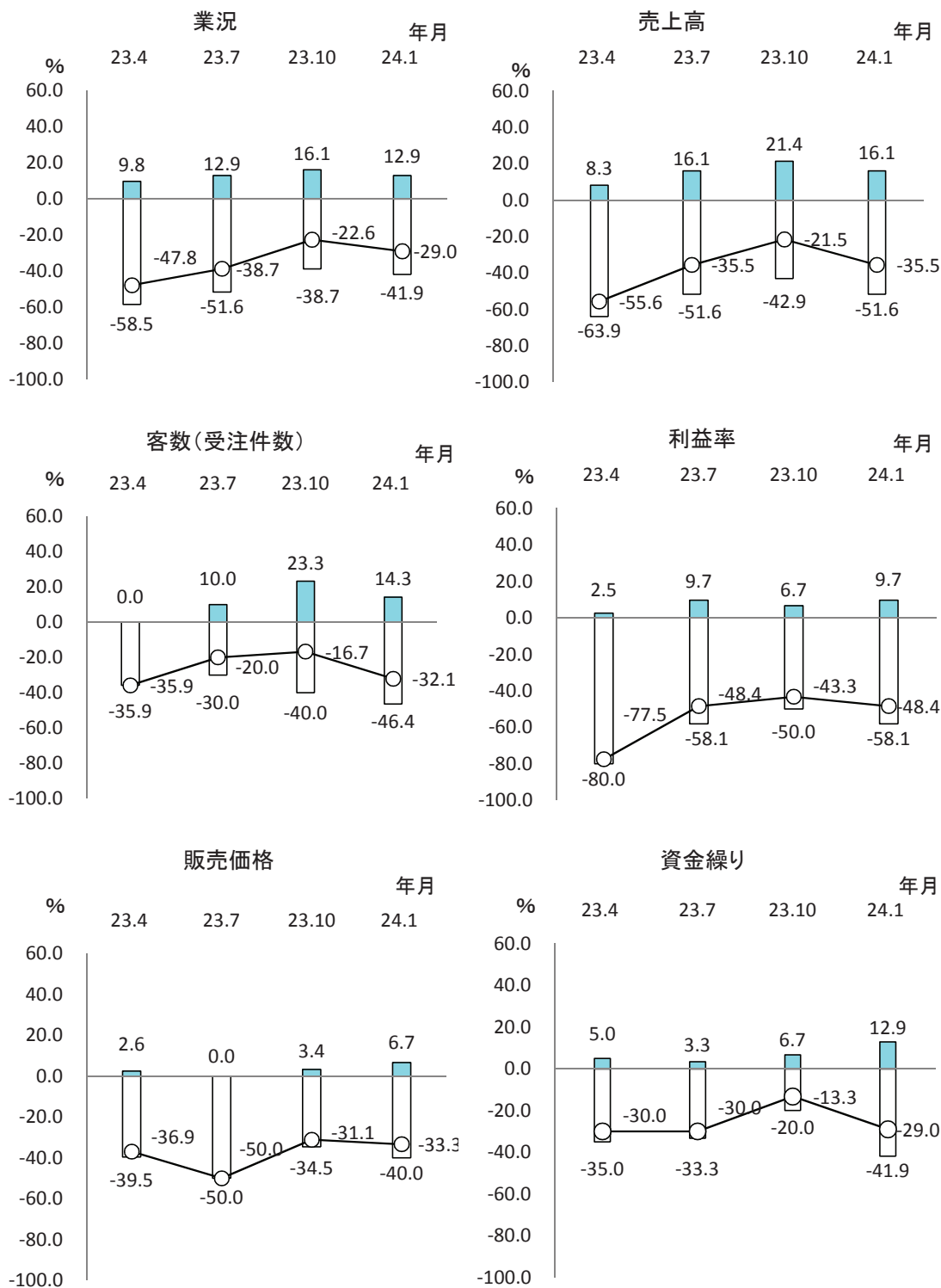
## 2 建設業、情報サービス業、小売業・卸売業、宿泊業・飲食業

※平成23年度の調査から、従来の「製造業」に、「建設業」、「情報サービス業」、「小売業・卸売業」、「宿泊業、飲食業」を加えて実施しました。

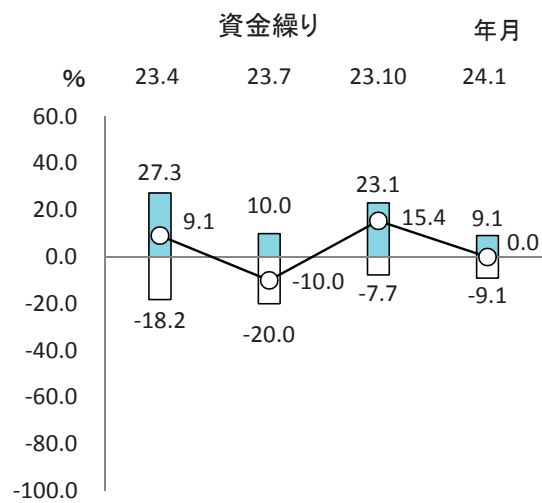
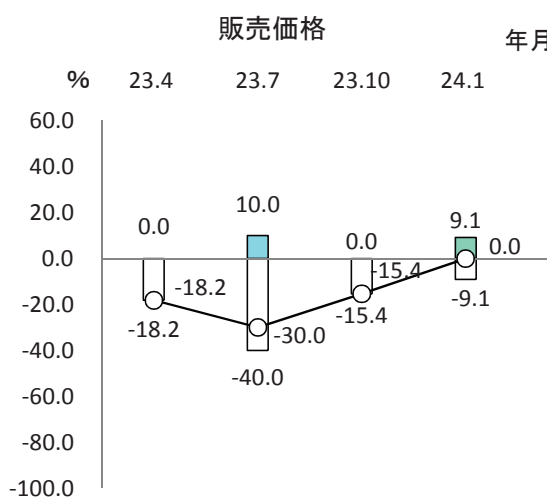
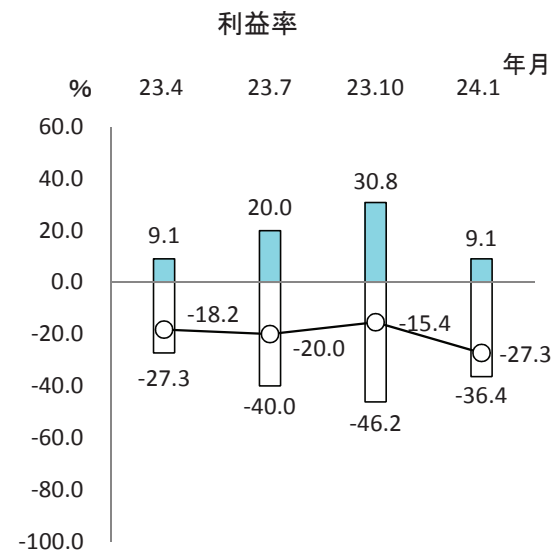
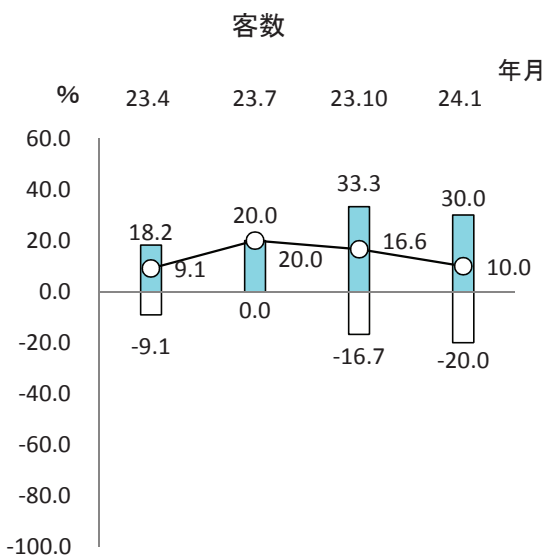
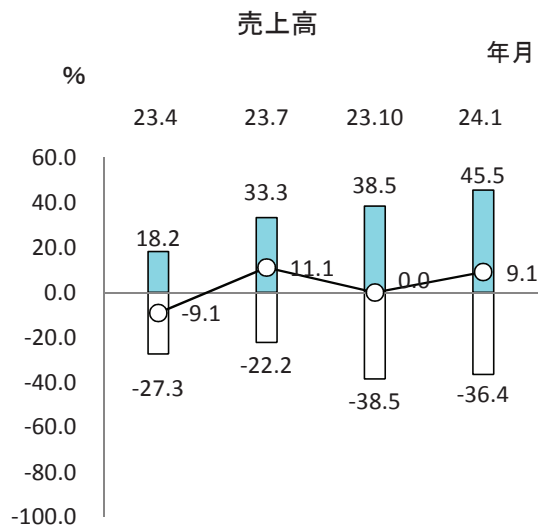
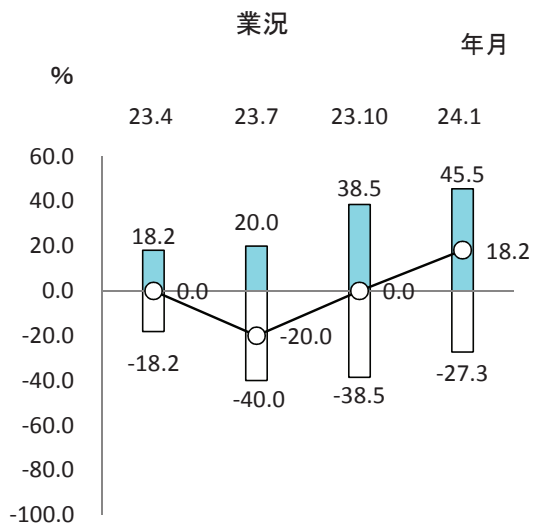
(注) 棒グラフのプラス側は好転（増加、上昇）の企業の割合、マイナス側は悪化（減少、低下）の企業の割合です。  
点（D I）は好転（増加、上昇）の企業の割合から悪化（減少、低下）の企業の割合を引いた差です。

### (1)前年同期に比べて

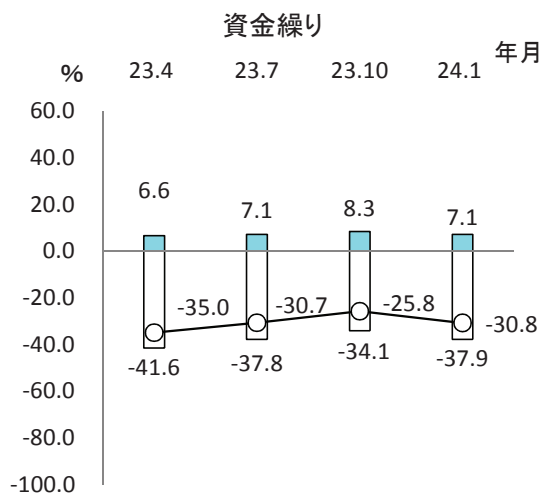
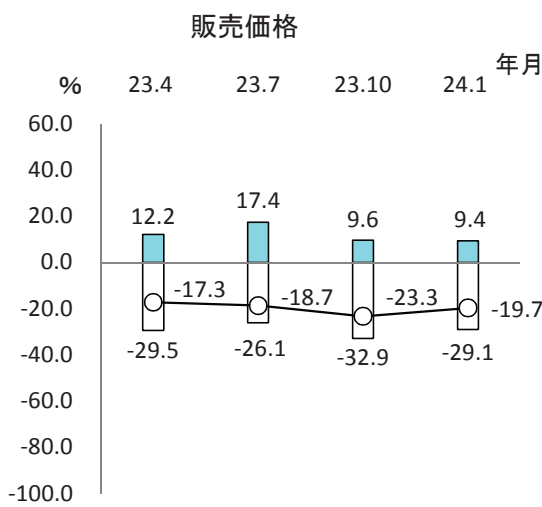
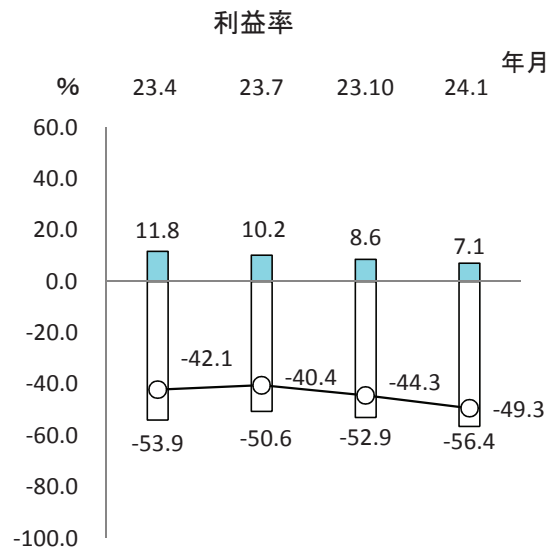
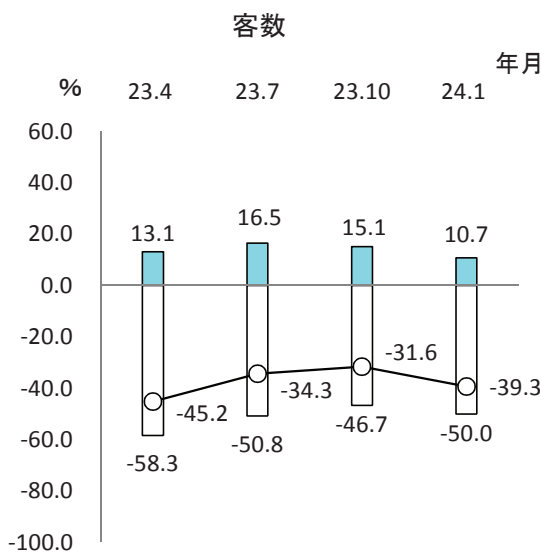
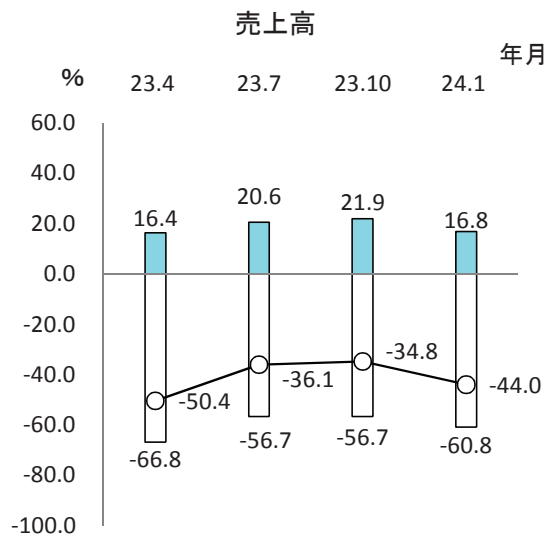
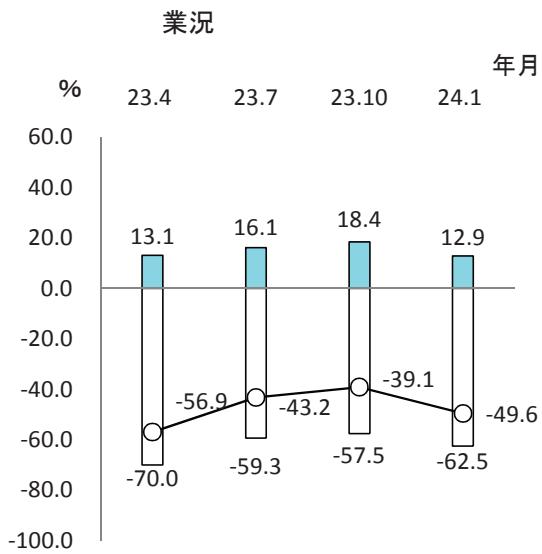
#### ア 建設業



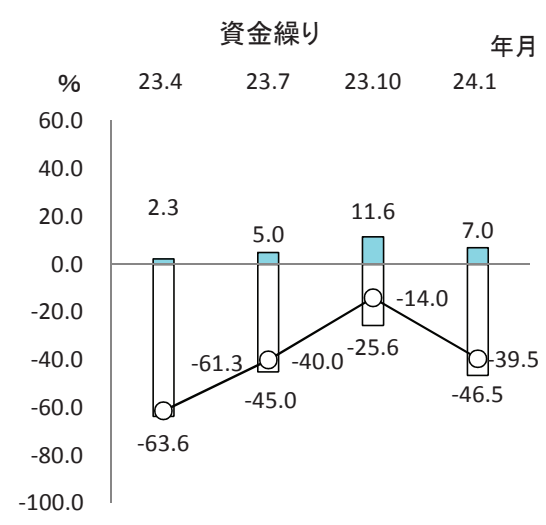
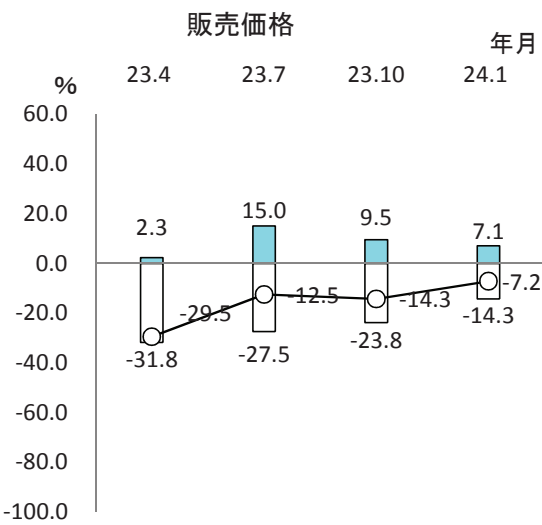
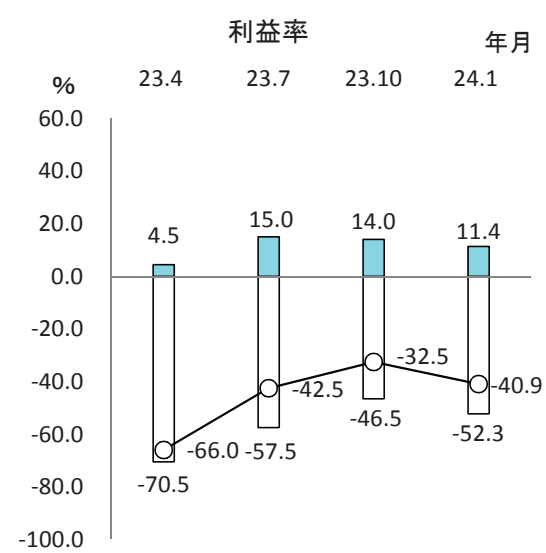
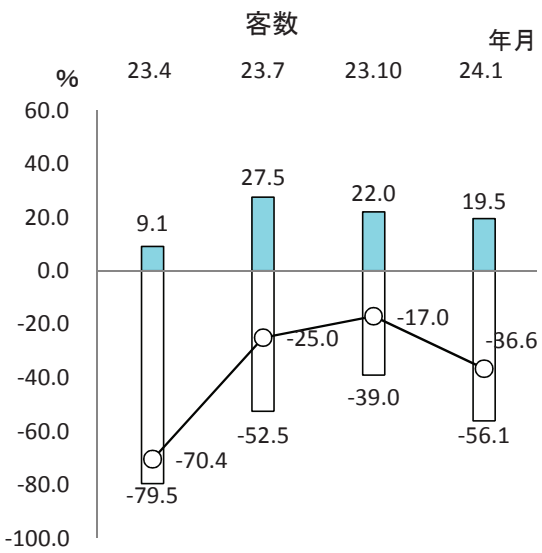
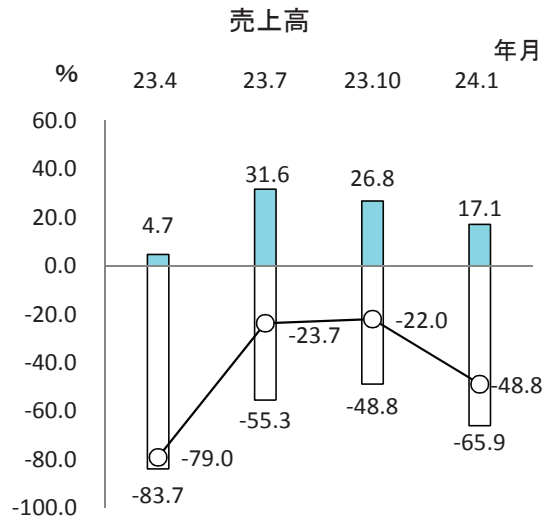
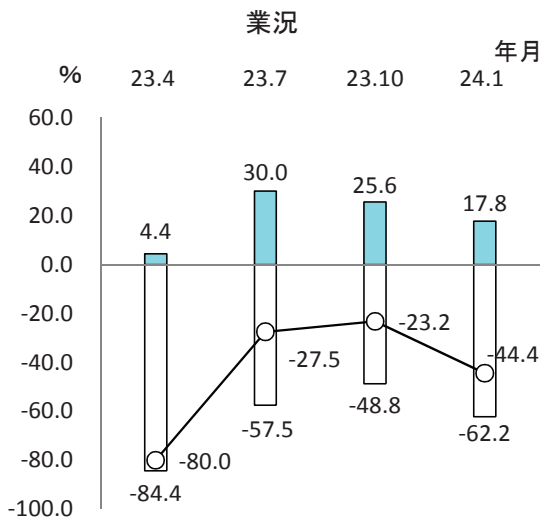
イ 情報サービス業



## ウ 小売業・卸売業

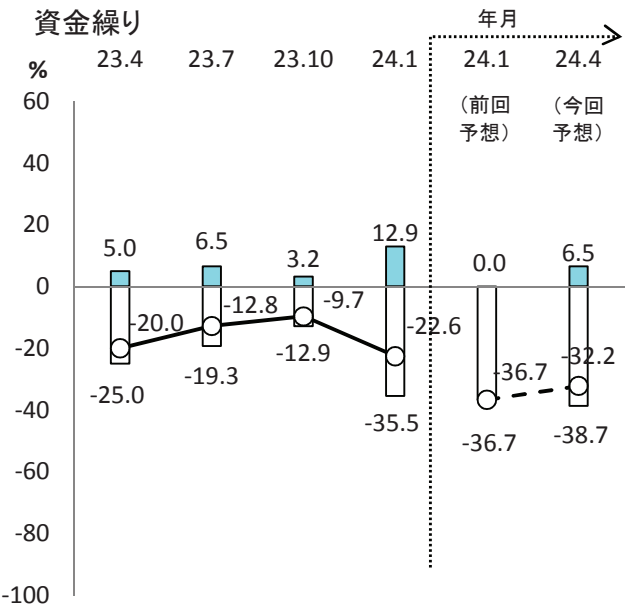
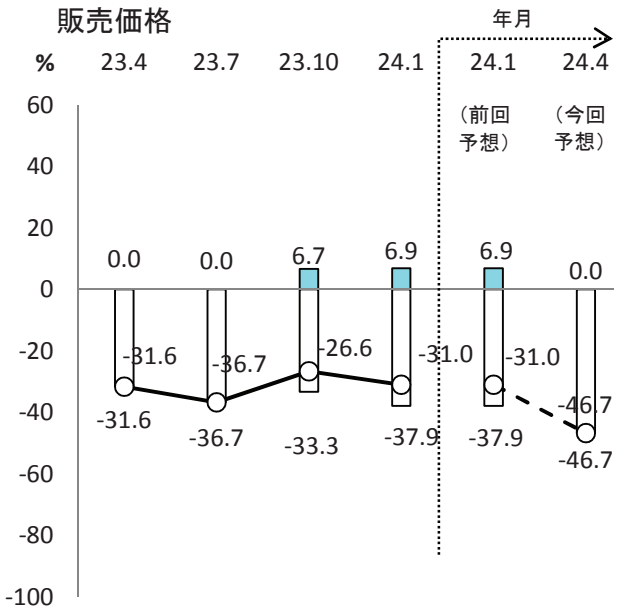
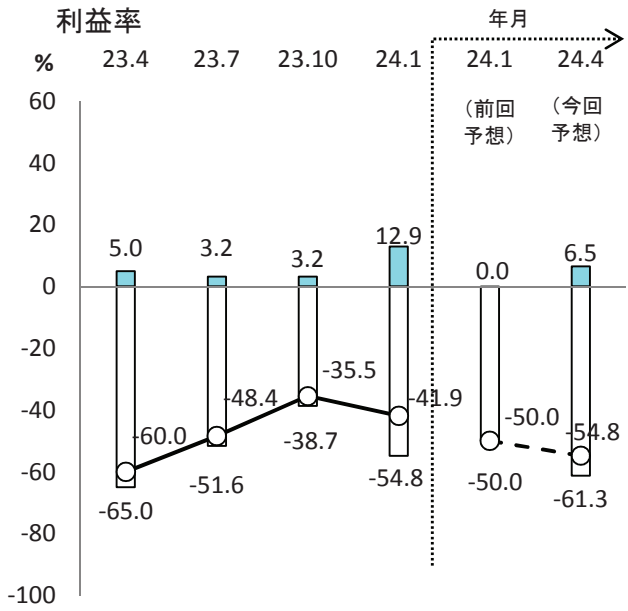
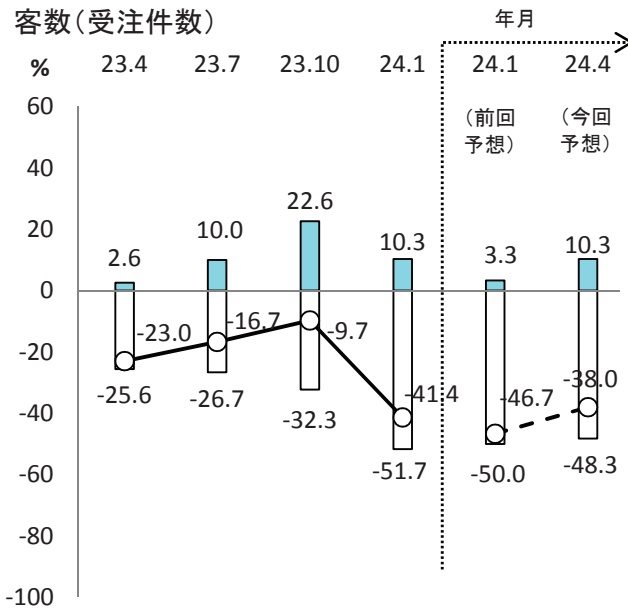
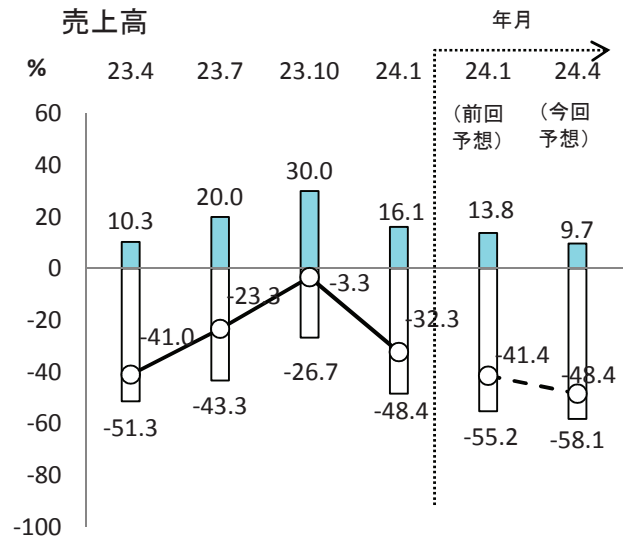
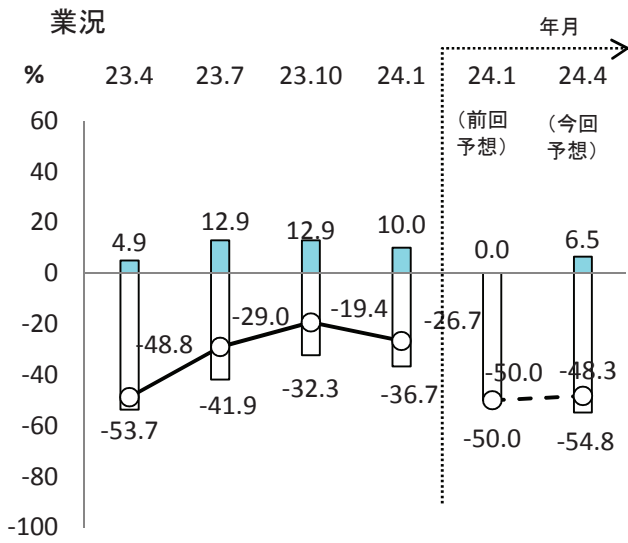


工 宿泊業・飲食業

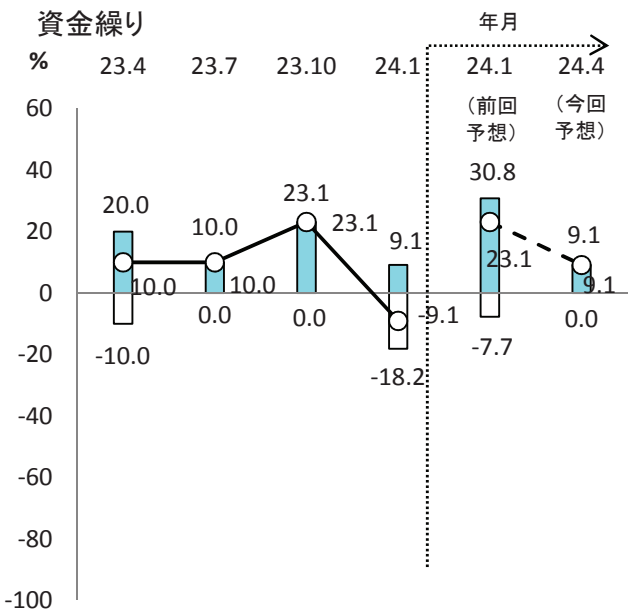
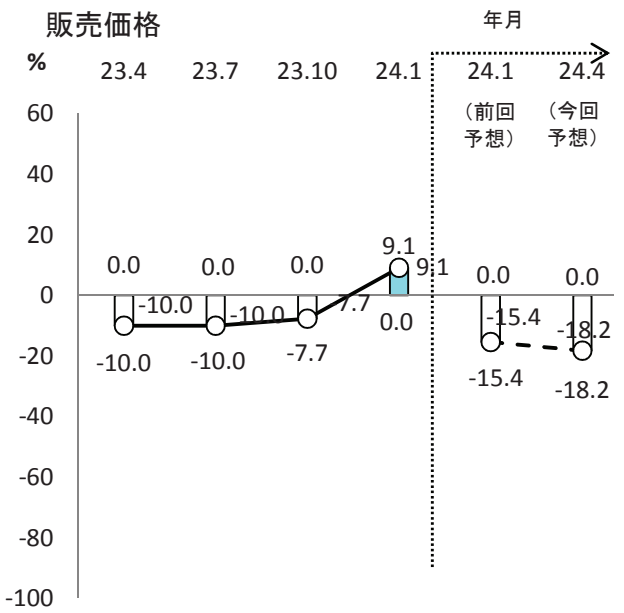
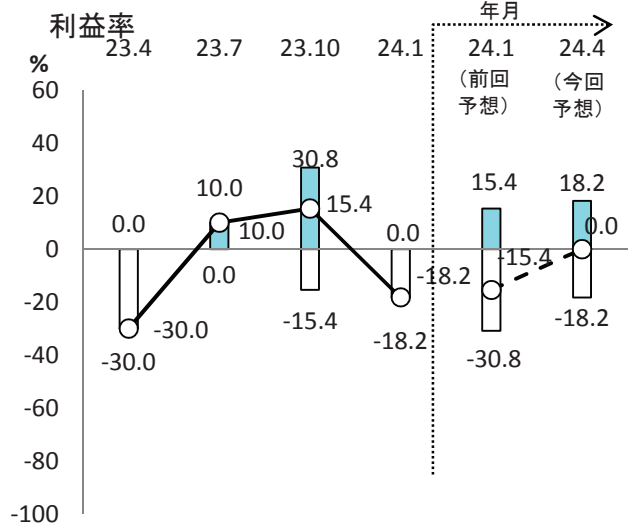
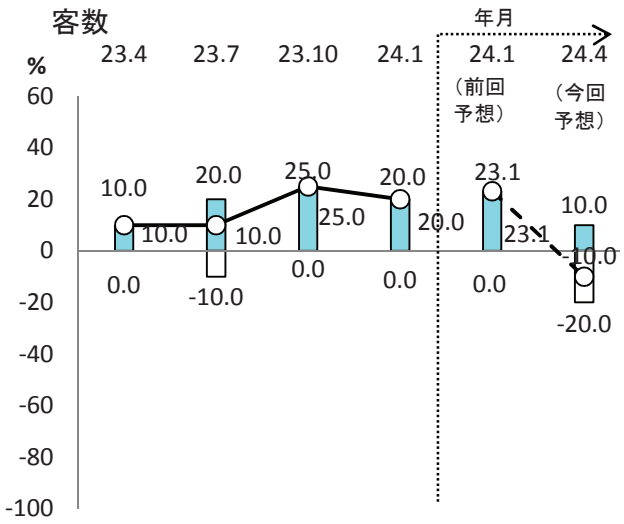
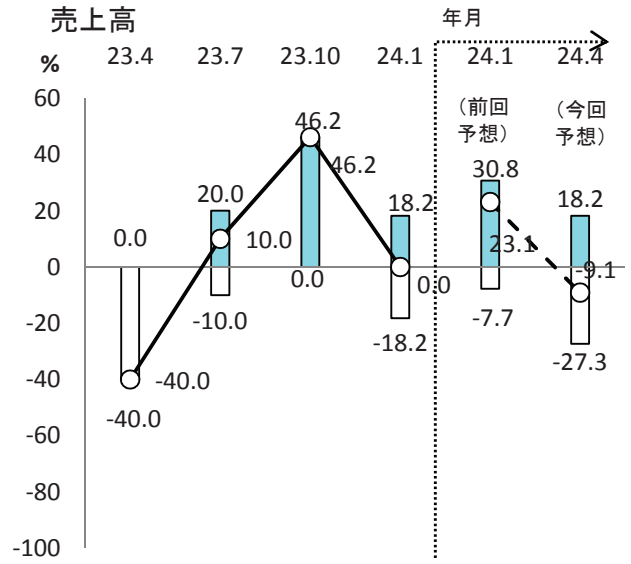
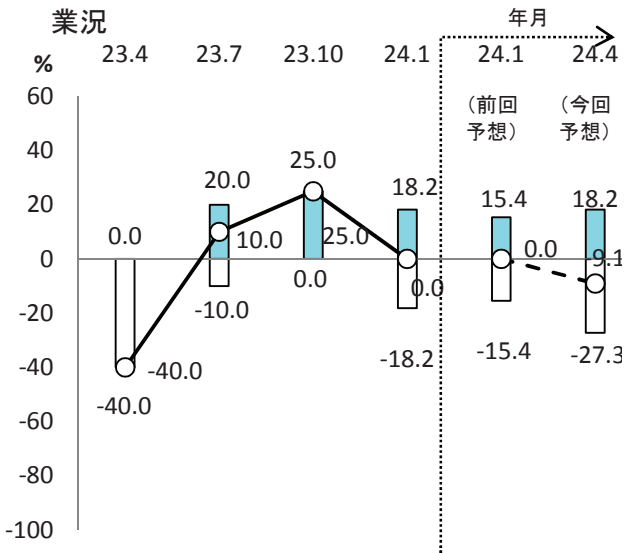


(2) 3ヶ月前に比べて及び3ヶ月後の予想

ア 建設業



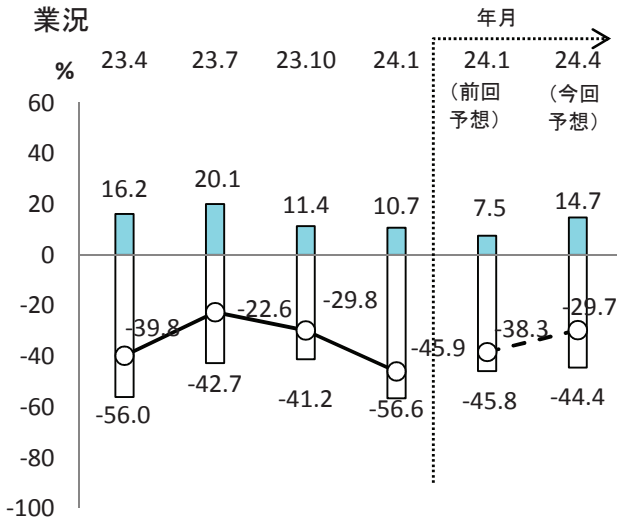
イ 情報サービス業



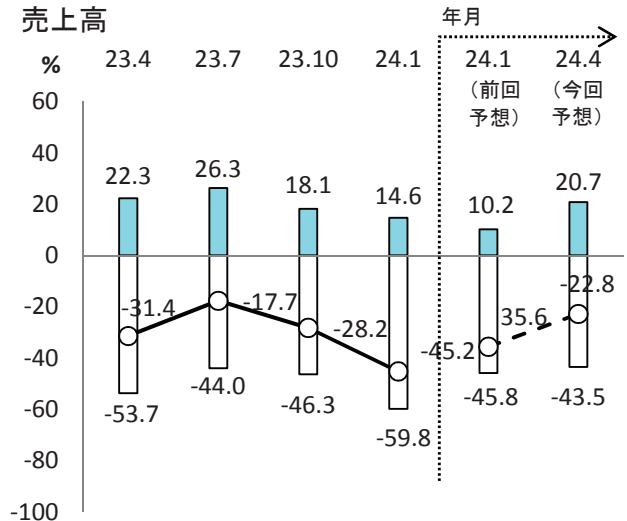


# ウ 小売業・卸売業

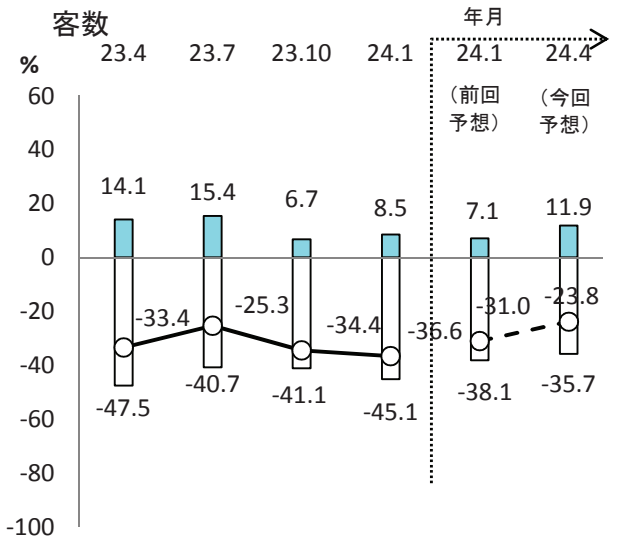
## 業況



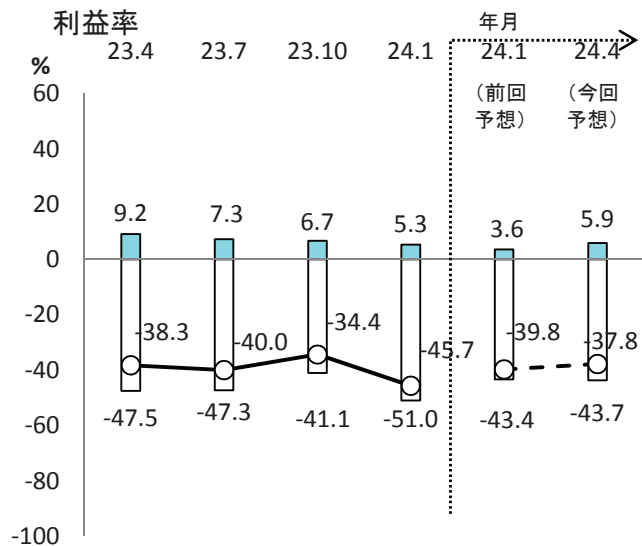
## 売上高



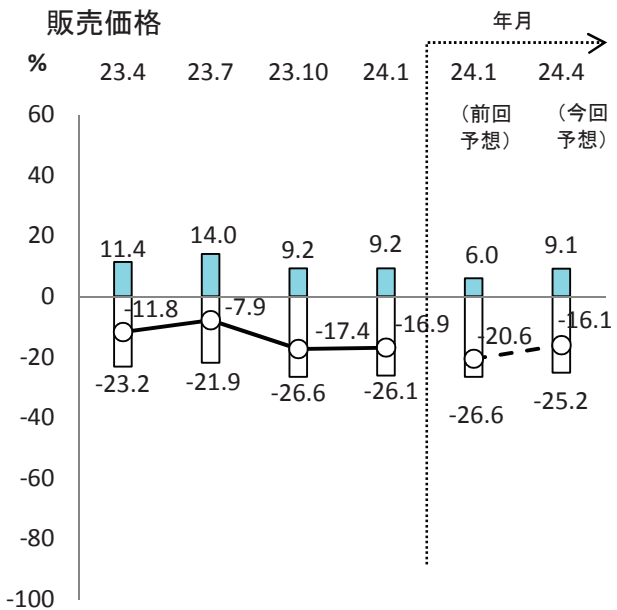
## 客数



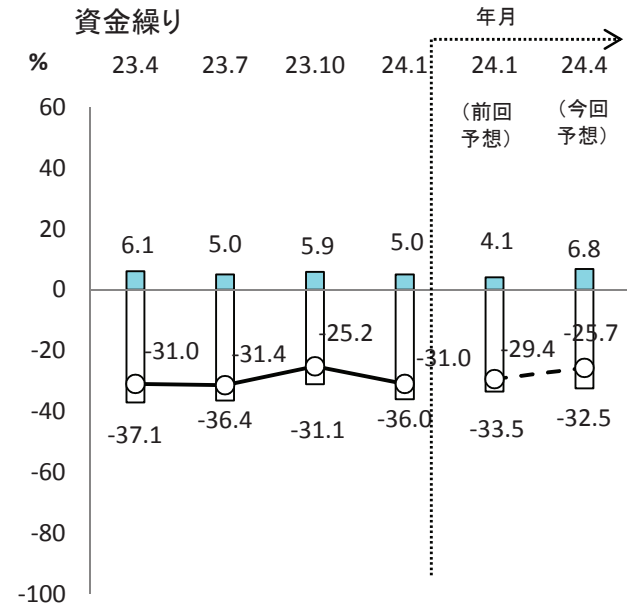
## 利益率



## 販売価格



## 資金繰り



工 宿泊業・飲食業

